



## 第 470 回 構造懇話会 例会での報告概要

### 1. 例会 ①部 『 兵庫県及び県下市町における橋梁の老朽化対策の実態と今後の方針について 』

#### 1) 報告者

兵庫県 県土整備部 土木局 道路街路課 国道班 永井 哲夫 氏、伊保 愛美 氏

#### 2) 報告内容

平成 24 年 12 月に発生した中央自動車道笹子トンネルの天井板崩落事故を契機に、道路構造物の老朽化対策に対する議論が活発化した。その流れを受け、平成 26 年 7 月には橋梁やトンネルの近接目視による定期点検を、5 年に 1 回実施することを義務づけることを定めた道路法施行規則が施行された。このことにより、県や市町は今後、これまで以上に老朽化対策に取り組まざるをえない状況となっている。

急速に本格化した市町の老朽化対策における様々な課題と、今後の方向性を報告する。

### 2. 例会 ②部 『 普通の橋のデザイン 』

#### 1) 報告者

大日本コンサルタント株式会社 大阪支社統括部長 高楊 裕幸 氏

#### 2) 報告内容

「橋の景観・デザイン」と云う言葉から受ける印象は、概ね平成のバブル混乱期に定着した“デザイン＝他との差別化＝お金が掛かる＝成果が読めない”であろう。バブル崩壊と同時に“コスト縮減”が世論の単一目的となり、結果業界では材料や技術の発展を見たが「橋のデザイン」は議論されることもなくなった。東日本大震災以降、政権が変わったことを契機に、公共事業はまた進みだしたが、未だ建設に対する大局的なコンセプトは明快でない。

各地で予算化された工事が進まない現状を考えると、戦後復興において量的充足を追求するあまり、質の面がおろそかになった時代を繰り返さないためにも、本稿では大多数の「普通の橋」のあるべき姿、最低限配慮すべき具体的な作法や定石、エチケットについて、提言を試みたい。

【橋梁と基礎 2012. 02 「4-2 風景と生活に馴染む橋」参照】

### 3. 特別講演 『 建設業の海外進出と課題 』

#### 1) 報告者

五洋建設（株） 国際事業本部、国際事業第2部調査役 楠元 俊二 氏

#### 2) 報告内容

- ・我が社の海外進出の歴史
- ・主な施工実績と現況
- ・海外建設工事における留意点

－ 以 上 －